



© Yuni

今回の
新キャラ

プラスわんこ

【必殺技】あ～そ～ぼ

いつも2匹一緒に。「一緒に遊ぼ」が口癖でところかまわず、ハート出して誘ってくる。

【考案者】谷田有似

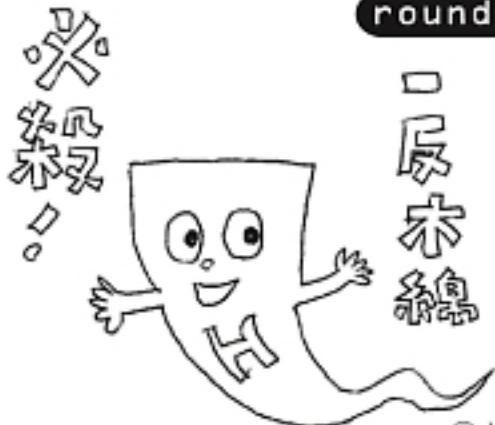
中国で切り絵を習い、それをベースに自分流の切り絵しています。

京都・大阪で毎月切り絵教室開催中☆

<http://blogs.yahoo.co.jp/uni8co>

たたかえ！ ヒガシヤマン

round 27



©大畠栄里

ヒガシヤマンの返し技

【必殺！ 一反木綿】

ヒーローになったら、女の子にモテる。そう考えていた時期がヒガシヤマンにもあった。彼は、夕暮れ時の鶴川岸にうずくまってダンゴムシを見つめながら、人生13度目の失恋を振り返っていた。「俺は…ダンゴムシさ」そんな彼の背中をやさしくノックする、ふたつの肉球があった。「あ～そ～ぼ」プラスわんこだ。敵だ。だが、敵でもいい。このダンゴムシを誘ってくれるのはいま、君たちだけだ。「ちくしょおおおお！」あの娘との空中ドライブを夢見て覚えた「必殺！ 一反木綿」にわんこを乗せて、ヒガシヤマンは夕陽に向かってどこまでも飛んで行った。涙で夕陽がにじむ。背中で大はしゃぎする2匹のわんこが、必要以上に重かった。

東山青少年活動センターにひそかに存在するキャラクター・ヒガシヤマン。彼は闘う！ 「…最近、作者が困ったら失恋ネタに持つて行ってる気がしてならないんだよね」そんなことは絶対にありえない。絶対に！ がんばれ、ヒガシヤマン！

文：筒井加寿子

ヒガシ ガシ

VOL.
27 ヒガシ
2010 AUTUMN

もくじ

- 01**・たたかえ!ヒガシヤマン
- 02**・もくじ
- 03**・東山schedule
- 05**・【特集】東山再発見
- 07**・東山 あやし。をかし。
- 08**・ヒガシヤマ Q&A
- 09**・ワークショップななめ読み
- 10**・季節のイラスト
- 11**・ステージサポートプラン
- 13**・Higashiyama Youth

空腹を充たすために食べるスナック菓子のように、
東山の情報もかじってほしい。
ヒガシ(干菓子)のイメージからくる季節感や彩りも
添えて。ヒガシガシは、そんな情報誌です。

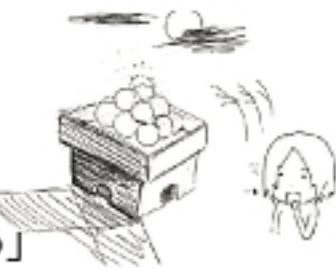


イラスト

藤本浩史 [the coopeez]
the coopeez HP

<http://www.geocities.jp/coopeez/>

東山schedule 2010



	10月	11月	12月
1	金	月	水
2	土	火	木
3	日	水	金
4	月	①	土
5	火	②	日
6	水	土	月
7	木	日	火
8	金	月	水
9	土	火	木
10	日	水	金
11	月	木	土
12	火	②	日
13	水	土	月
14	木	日	火
15	金	月	水
16	土	火	木
17	日	水	金
18	月	①	土
19	火	②	日
20	水	金	月
21	木	日	火
22	金	月	水
23	土	火	木
24	日	水	金
25	月	①	土
26	火	②	日
27	水	金	月
28	木	日	火
29	金	月	水
30	土	火	木
31	日		金

■は休館日です

① インプロビゼーションワーク 「演劇の表現力を取り入れてみよう」 働くきっかけにつなげよう

ゲームや役者のトレーニング方法を使って、「自分を表現する」方法と一緒に探してみましょう。自己表現を体験しながら、どれが自分にあった方法か、どういうことに注意すべきかをさぐります。同じように、「他者の表現を受け止める」体験もしてみましょう。この場での人とのやりとりが、社会とのつながりが生まれるきっかけになります。

日 時：9月27日～11月8日(毎週月曜日／6回)

18:00～21:00 ※10月11日は除く

参加対象：現在就職活動中の学生及び、職についていない
15歳から概ね34歳までの方

定 員：10名(先着順) 参加費：無料

ナビゲーター：二口 大学(俳優)・広田 ゆうみ(俳優)

申込み受付：要予約 京都市東山青少年活動センターへ直接来館、
または電話、E-mailにてお申込みください。
※10月18日まで申込を受付ています。

② 陶芸ワークショップ! 「陶芸体感！電動ろくろ＆手びねり」

土練り・手びねり・電動ろくろ・削り・施釉をナビゲーターのアドバイスを受けながら体験できます。

日 時：10月5日～11月16日(毎週火曜日)

18:30～21:00 ※最終日のみ19:00～20:30

参加対象：京都市内に在住もしくは、通勤・通学先のある
13歳から30歳までの方

定 員：9名(7名に満たない場合は中止)

参加費：9,000円(全7回／材料費込み)

ナビゲーター：涌波 隆(四代 蘇峰)

申込み受付：9月21日(火)13:00～(先着順)

③ 陶芸ワークショップII

「ひっかき絵付け+色ぬり」 オリジナルタンブラーを作ろう

ペアのタンブラーに絵付けを行います。

「象嵌(ぞうがん)」という技法を使って絵を描き、焼きあげます。先のとがったもので土を彫り、そこに絵の具を入れ、さらにその上から絵付けします。絵を描くのが苦手という方でも、気軽に参加できます。

日 時：11月19日・26日・12月3日(毎週金曜日)

18:30～20:30 ※最終日のみ19:30～20:30

参加対象：京都市内に在住もしくは、通勤・通学先のある13歳から30歳までの方

定 員：12名(8名に満たない場合は中止)

参加費：2,500円(全3回／材料費込)

ナビゲーター：今村 裕華(陶芸作家)

申し込み受付：10月14日(木)13:00～(先着順)

【②③④の事業について】

受付日より、直接来館、または電話・E-mailにて先着順受付。

いずれの事業も会場・問合せは

京都市東山青少年活動センターです。

TEL 075-541-0619

E-mail higashiyama@ys-kyoto.org

件名に事業名を書き、以下の項目を明記の上、送信してください。

①お名前

②年齢

③電話番号

④学生or社会人

④ ココロからダンスWS #6参加者募集

このワークショップは最初に身体が持っている能力を知ることから始まり、それをもとに動きを作り、そして自分の見せているものが相手に伝わっているのかを他者の目から知っていきます。

その過程で自信の疑問や課題を発見すること大切にしています。

またこのワークショップでは、さまざまな表現に出会っていただく機会として、ナビゲーターの他に身体を使った表現活動をされている方々を特別講師としてお迎えします。

身体に興味のある方、何か始めたくて迷っている方、京都が好きな方、好奇心が溢れている方、自分の思いを人に伝えたい方、ここから初めてみませんか？

日 時：11月22日(月)～2011年3月24日(木)

11月・12月は毎週月曜日、1月～3月は
毎週月・木曜日 18:00～21:00

(レッスン日程以外に自主練習をする可能性があります)

*説明会／11月15日(月)19:00～20:30

*公演日／3月19日(土)・20日(日)

*公演準備日／3月13日(日)～17日(金)
水曜日除く

参加対象：京都市に在住か在学・在勤の中学生から30歳までの方。経験は問いません。

定 員：15名(先着順)

参 加 費：25,000円

(全31回のレッスン費用・公演費用一切込)

ナビゲーター：佐藤 健太郎(ダンサー)

特別講師：工藤 あみさん他

アシスタント：大快 和子・福井 幸代

申 込 み：10月4日(月)13:00より先着順にて受付。

東山再発見

特集

伝統的な西陣織りの中でも「爪搔き本つづれ織り」という技法を用いてバッグや帯など様々な作品を発表されている、「織家 まりきこ」の山口 真理さんと岡本 真紀子さん。今回は東山センターの近くのあじき路地で、月に2回お店を開かれているところにお話を伺いに行きました。これからも無理せずがんばると話すお二人に目が離せませんよ！！



「織家 まりきこ」

山口 真理さん

岡本 真紀子さん

●——お店の名前の由来を教えて下さい。

真理 私の名前が真理で、

真紀子 私が真紀子で合わせて「まりきこ」。「真」がかぶつるので、それじゃあ一緒に「まりきこ」にして。決めました。

●——もともとは同じ場所で働いてたんですか？

真理 全然、そうではありません。

真紀子 私の働いていたところが、織っている所を見学することができる所だったんですね。彼女がそこにちょうど来て、同じ織りをしているんだって知りました。たまたま私も彼女も同じ区内に住んでいたこともあります。それから仲良くなりました。60歳や70歳、80歳の大先輩の方たちに教わっている中で、「そんなこと聞いたらちょっと失礼かも」というようなことを話し合ったり、新しい作品を作ってはみたものの、(大先輩には)見せづらい気持ちもあったりと、お互いに同じような悩みを共有できるという点で、織りのことを話せる大事なお友だちになったんです。

●——今回このあじき路地でお店を開くことになったきっかけは？

真理 北側のお家に卒業される方が居られて、入居者の募集があったんです。私たちはそれぞれ自宅で製作していたので、「工房兼お店」がしたくて、それで応募したんですけど「住むことを前提にそういう活動をしてほしい」と言う条件の公募だったので、その場所は落選してしまいました。けれど、ここのママさん(大家さん)が私たちにすごく興味を持ってくださったんです。それで、「ここならお店ができるからやってみる？」と南側のこの場所を紹介をしてくださいました。

●——「つづれ織り」について教えてください。

真紀子 西陣織りの中で「爪搔き本つづれ織り」という種類の織り方になります。この布は、帯地としての用途が多く、1枚でも厚みのあるしっかりした生地です。縦糸は緯糸(よこ糸)でくるむように織るので見えず、緯糸の色だけで柄を織り上げていきます。

真理 縦糸の下にある下図という絵柄に合わせて緯糸を入れていきます。細かいところは一般的な織り物のように織り機でトントンと叩いてしまうと織れないので、そういうところは全部爪で搔き寄せるように織ります。爪かきの職人の爪は、ギザギザになっているんです。

●——自然にそうなるんですか?

真理 爪を切った後ヤスリで削り整えて作ります。

真紀子 クシ(織り面を整える道具)代わりでもあるのですけど、この爪を使うことによって、クシを持ち変える時間の短縮にもなります。昔からずっと受け継がれている理由は、爪と緯糸との相性がいいからなんですね。

●——メインに作っている作品は何ですか?

真理 いろいろあります。一応メインにしていきたいのは帯なんですが、帯って日常使用される機会が少ないですよね。ここでは、着物を着ていても、着ていなくても、使えるものを発信していきたいと思っています。

真紀子 少しでもつづれ織りを身近に感じていただきたい、織り方や生地のことを皆さんに知っていただきたいと思っています。

●——活動する上でのこだわりはありますか?

真理 小さなものでも持ってもらえたなら、少しでもこのつづれ織りに触れて絹の美しさや、布の心地よさをしつてもらえたらしいなって思っています。ストラップとかでも「西陣織のつづれやねん」とかいう言葉が街で聞こえたら嬉しいし、「爪で織ってはんねんで」とか、そんなことまで説明できるような人が増えたらすごく嬉しいですね。つづれの職人でも若い人がいるっていうことも知ってもらいたいですね。



●——このお仕事の、面白いところと辛いところをそれぞれ教えていただけますか?

真紀子 私は、どんどん織りあがってくるのが自分の目に見えるところが面白いです。どんな模様でも表現しようと思えば、できることも面白いところであり、難しいところもあります。

真理 私にとっては、柄や織り面をきれいに織ることが難しいんですが、それを追求していくことが面白いところでもあり、辛いところでもあります。

●——今後の展望を教えてください。

真理 この織り物は1点物の要素がとても強いので、オーダーメイドができたらいいなと思います。本当にその方の好きな色、模様で、記念に残る大切な1点に出会ってほしいし、そんなすてきな品作りに携わることができるのは、作り手としても1番嬉しいことですね。

真紀子 そうなんです。例えば帯でも、その方の体に合わせた長さや幅に合わせることができます。背の高い方でしたら幅が広い方がバランスがいいなとか、細い方だったら、もうちょっと帯が大きく見えないように幅を狭くしたりできますので。

真理 お店として、今は毎月第1・3土曜の2日間だけを営業日としています。年間通しても30日に満たない開店日と少ないのですが、次の営業日までの2~3週間内では毎回の新作品を作るのに、織るところからの制作では作品によって十分な時間ではありません。

真紀子 私たちのしていることは1年、2年で結果の出るものではありません。ずっとずっと長く続けることが力になって、もっといいものができると思うんです。でも無理をすると続かないし、末永く続けるために、「無茶な無理はせず、頑張って行こう！」と、もうすぐ3年目にはいろいろとしています。

●—今後の予定があれば、お願ひします。

真理 11月1日～6日まで「2010年 織屋まりきこ新作展」を行う予定です。その時には新作品の他に、6分の1サイズの小さな織り機の模型も飾りますよ。

真紀子 私たちの織り機を作つてもらつた、機料店さんが作ってくれたものなので、ちゃんと動くんですよ。それを見てもらうと、動かし方なんかも分かって面白いと思います。この作品展は、ぜひともいろんな人に来て、見て、触れて、いただきたいと思っています！

●—本日は貴重なお時間いただき、ありがとうございました。

取材：夏原理恵・水野里織（京都市立日吉ヶ丘高等学校3年生） 編集：松崎美里（京都橘大学文化政策学部4回生）



「織屋 まりきこ」

つづれ織りの帯・鞆・小物のお店 ～あじき路地～
営業日 毎月第1・3土曜日 11:00～18:00
京都市東山区大黒町松原下ルニ丁目山城町284
あじき路地南1号

★「2010年 織屋まりきこ新作展」

11月1日～6日 11:00～19:00



東山 あやし、をかし。 ～ぶらぶら歩いてみつけた風景～

ヒガシガシの編集ボランティアが、
東山地域で見つけた風景をお届けします！

信号待ちをしていて、ふと顔を上げると
奥のほうに見える五重塔。
いつもは退屈な待ち時間…
もったいないなあと思う時間…
でもちょっとゆっくり
立ち止まってほっとできる時間であるかもしれません。

●鈴木けい（京都女子大学発達教育学部1回生）

ヒガシヤマ Q&A



今回のQ&Aでみんなに聞いた質問は、『オススメの映画』です。
芸術の秋にとっておきの一本を探してみませんか？

13歳／女性／優魅
『アリス・イン・ワンダーランド』
不思議の国のアリスが好きだから。

20歳／男性／ゴン
『ゴッドファーザー』
最近感動しました。

20歳／女性
『トイストーリー3』
おもしろくて泣けるから。

21歳／男性／イトキン
『スターウォーズ』
わくわくする。

18歳／女性／永品
『メトロポリス』
手塚治虫さんの漫画が原作で、今の記憶で
初めて観た後に泣いた映画です。

18歳／女性／さっちゃん
『となりのトトロ』
やっぱリジブリは世界一です。

21歳／男性／よこやん
『ポケモン』

21歳／女性／アヤ
『雨に唄えば』
昔の映画とあなどるなれ。
この映画めっちゃおもしろい。

13歳／女性／紗凪
『余命1ヶ月の花嫁』
おもしろかったから。

27歳／男性／タキメン
『ジョーブラックをよろしく』
プラットピットが車にひかれるシーンが
ビックリしておもしろい。死神役がカワイイ。
一見堅苦しい映画なのかなあと
おもっていたけれど予想に反して見やすくて
感動するシーンも多い。なんせ面白かった。

19歳／女性
『幸福な食卓』
原作も凄くいいお話だし、
映画も見た後に凄く
温かい気持ちになります。

21歳／男性／スエ
『ブラザーフッド』
あれはヤバい。

22歳／男性
『岸和田少年愚連隊
BOYS BE AMBITIOUS.』
アツい、アツすぎる。



work shop

●概要

「東山フェスタ in ヒガシガシボランティア」

今年で7年目を迎えた東山フェスタ。7月24日～9月30日までの期間、東山青少年活動センターと地域の空間をお借りして、21のプログラムを開催しました。

今回のななめ読みはいつもより欲張って、21のプログラムの中でも、ヒガシガシの編集ボランティアが興味を持って参加した、3つのプログラムについて、3人から報告したいと思います。



クラフトペーパーで路地作り!(8月6日)

●炎天下の中、参加者全員でセンターから徒歩7分くらいの所にあるあじき路地まで向かい、独特の雰囲気漂う昔ながらの長屋に感動を覚えつつ、見学。そこで活動されている方の部屋をのぞかせてもらうなど貴重な体験ができた。みんなそれぞれに写真を撮る姿が印象的だった。傾いている家の入り口を見てそれでもなおまだ建っている長屋がかっこよかった。

見学後、センターに戻りクラフトペーパーで箱を作りその中をのぞくと今見てきた路地の景色を覗き見することができる箱を作成。用意されたクラフトペーパーを形どられた写真どおりにカッターなどで切り取る作業は思いの外細かく、難しかった。久々にタニオリ、ヤマオリを体験。年齢層幅広い参加者の皆さんも黙々と作業に没頭、かなり静かに工作の音が響いた。

約1時間で完成させるというプランも、人によってできればも速さも異なったが、私もだいたい40分くらいで無事に覗き箱を造ることに成功。のぞくとあじき路地が立体的に見ておもしろい。私は逆さまに写真を張り付けたため普段とは違う風景を楽しむこともできた。大人も子どもも工作することに集中し、素敵な時間を共有できた、ワークショップになった。次の機会も楽しみだ。

オリジナルメッセージカード作り!(8月9日)

●会場に入るとパレットと絵の具がいっぱい。絵が苦手な私は不安になりましたが、作り方はとてもシンプル。アクリル絵の具を画用紙に伸ばして、いろいろな色を重ねてゆき、それを文字や絵の形に切り取り、メッセージを作って黒い台紙に貼って完成。色を重ねていく過程では、あまり何も考えず無心でやっていると、すごく鮮やかで綺麗な色合いになりました。また、水を多く含ませて筆を振り下ろして斑点模様を付けたり、指を使って色を塗っている人もいました。どんな風にしようか考えてきて、どんどん作業が進む人も。自分やお父さんの誕生日カードを作った人や、ケーキの絵を書いている人もちらほら。とにかく、小学生から大人の方まで、みんな夢中になつて自分の世界を作り出していました。ナビゲーターのいちかわさんによるきめ細かい指導のおかげで、小学生も、少し戸惑っていた私も、みんながのびのびと自分の思い描くメッセージカードを作成することができたと思います。

手染め布のランプシェード作り!(8月29日)

●まだまだ暑い日が続いていた8月下旬、私はドキドキしながらランプシェード作りに参加した。小学校の図工室の雰囲気を感じさせる創造工作室という部屋でやっていた。そこに入るとお手伝いのボランティアの人も含めてもうすでに10人程の人たちがいた。私は初対面の人と話すのが苦手なので、ワイワイ楽しくできるかなと不安ばかり募っていました。でもそんな心配は必要ななかったようで、ボランティアの人たちはとても気さくで私はほっと安心した。布をどんな模様にしようか、何色で染めようかなど楽しくおしゃべりをしながら作った。私に丁寧に教えて下さった人は同じ年で驚いた。とてもしっかりしている方だったので年上かと思っていた。作業に集中し、一息ついて周りを見渡すと多くの人々が来て

いた。みなさん楽しそうに作っていたのが印象的だった。自分のランプが完成して明かりをつけたり、他の人たちの作ったランプを見たり、作り終わっても楽しみは尽きなかった。この日は本当に良い時間を送れた。来年もまた参加したい。



報告者

夏原 理恵

鈴木 けい(京都女子大学発達教育学部1回生)

足立 由佳(京都橘大学現代ビジネス学部2回生)

季節のイラスト

テーマ:秋に食べたいもの

いただいたイラストのほとんどが秋刀魚(さんま)でした。

やはり「秋に食べたいもの=秋の味覚」なのでしょうか?

秋の夜長を好きなものを食べながら、過ごすというのもいいですね。

ただし、夜更かしにはご注意を。



このコーナーでは、テーマにそったイラストを募集し、いくつかの作品を紹介していきます。

●編集 水野里織(京都市立日吉ヶ丘高校3年生)

ボランティアからの耳より情報

京都学生芸術作品展2010

Arts Bar@Rissei

11/19～11/20

ARTE BAR ARTE BAR ARTE BAR ARTE BAR
ARTE BAR ARTE BAR ARTE BAR ARTE BAR

ARTE BAR @ RISSEI

京都地域に集積する芸術文化を学ぶ
11大学の学生による合同作品展です。
幅広い分野の作品を心行くまでお楽し
みいただけます。

詳しくは→ <http://ameblo.jp/arts-bar/>

日時:11月19日(金)～28日(日)

12:00～19:00

場所:元・立誠小学校



STAGE SUPPORT PLAN

ステージサポートプラン

10月～12月

東山青少年活動センターが自主公演の支援をします。初心者から経験者まで、色々な人たちに東山にある創造活動室を利用して欲しい。だから次のようなグループの公演を応援しようと思いました。

- ① First Trial (活動経験の浅い人たち)
- ② チャレンジ! (何か新しいことに挑戦しようという人たち)
- ③ 東山のおススメ! (京都でがんばって活動している人たち)

★詳しいことのお問い合わせは→東山青少年活動センターへ

<http://www.ys-kyoto.org/higashiyama>

HPでも
ご覧頂けます。

応募 方法

- *応募には まず、担当者にご相談ください。
- *企画書の提出(公演希望日、公演内容やセンターで公演をしてみたい理由を書いてください)
..... 公演しようとする月の4ヶ月前の20日まで
- *個別面談 応募された全てのグループと面談(応募締切日より10日以内)
- *決定 東山青少年活動センタースタッフとボランティアで選考の上、支援公演を行っていただけるグループを決定。(公演しようとする月の4ヶ月前の月の末日)



創活番ボランティア募集中!

「創活番」とはステージサポートプランのお手伝いをするボランティアチームです。この度、新メンバーを募集しています。何か新しいことを始めてみたいと思っている方におすすめです。照明や音響、舞台の知識も身につきます。詳しくはお問合せください!



■劇団ヘルベチカスタンダード 「逢魔ヶ時」

俊寛僧都、ヒルメ・テラス、貝原益軒、ハックルベリー・フィン。その他多数。六畳一間の歪んだ空間を所狭しと駆け巡る、陰謀渦巻く物語。

【HP】 <http://helveticastandard.web.fc2.com/>

○お問合せ…geki_helvetica@yahoo.co.jp (伊藤)

10/8 (金)18:30
9 (土)13:30/18:30
10(日)12:30

*開場は開演の20分前です
無料カンパ制



■ 剧団愉快犯

「@プラットホーム」

こんな方にオススメ。
笑いたい方。物語を楽しみたい方。
クセのある誰かに魅かれたい方。
笑いたい方。震えたい方。
——駅。8人の喜劇。
(作、演出 玉木青)

【HP】 <http://yukaihan.info>

10/15 (金) 19:00

10/16 (土) 14:00/19:00

10/17 (日) 13:00

前売300円 当日500円

ペア割引(2枚セット)

前売500円 当日800円

○お問合せ…

080-5143-5998 (タカサキ)
gekidan@yukaihan.info



■ 剧団てんとうむし

「あなたのために作りました。」

とある劇団の脚本家一田崎が、脚本作りに悩んでいると、そこに5人の役者達が帰ってくる。役者達は、試しにその脚本を演じてみる事になるが、話は思わぬ方向に…。

【HP】 http://www.geocities.jp/gekidann_tennoumisi

10/24 (日) 13:00

入場無料

○お問合せ…

gekidann_tennoumisi
@yahoo.co.jp



■ 佛教学大学 児童教化研究部

「勢至まつり子ども大会」

主に子どもたちを対象に、人形劇や劇、影絵を行います。子どもから大人まで楽しめるものとなっていますので、ぜひ、見に来てください！

※すべての演劇公演の開場は開演時間の30分前です。



■ ピンク地底人

「その指で」

人にはどうしても言葉にできないものがあります。便宜的に、人はそれを「孤独」と呼んでいます。

今回、地底人は演劇でその「孤独」を克服しようと思います。

【HP】 <http://www.geocities.jp/pinkundergrounder/>

12/17 (金) 18:30

10/18 (土) 14:00/18:30

10/19 (日) 13:00

前売・当日共1200円

学生前売1000円(要予約・学生証)

○お問合せ… 090-6401-8209

pink_chiteijin_123@yahoo.co.jp

Higashiyama Youth

東山センターを利用している青少年にインタビュー

今回お話を伺ったのは、京都を中心に自作詩のパフォーマンスを行っている、『平成浪漫』のまいせさんです。公演前の練習にレッスンスタジオなどを利用されています。

元々は高校の同級生のまいせさんと、みはるさん。東山センターの演劇ビギナーズユニットに参加した後、『平成浪漫』を結成。今年3月に初公演、10月には第二回公演を行いました。

一活動を始めたきっかけは?

ボエムフェスティバルで谷川俊太郎さんの朗読を初めて聞いた時いいなあと思い、私が声をかけました。詩では、字の並びやどの漢字を使うかなどの、細かいビジュアル的な面に捉っていました。でも、耳で聞くと先が読めなかったり、裏切られたり、会場全体で味わっているというのが、儀式みたいで、ちょっと普通じゃないなって思いました。二人とも詩を書いていたので、朗読をやらないかと声をかけたのが始まりです。

一これまでの活動内容は?

今年の3月に京都で初公演をしました。第二回公演は9月に京都と東京で開催しました。また、今年のボエムフェスティバルには平成浪漫として出演して、200人弱の前でパフォーマンスをさせていただきました。



一自分にとって活動時間とはどのような時間ですか?
詩を書きたいなと思う時に書きますし、活動って家で1人で脚本を作る時間と、演出の考える時間ですかね。もともと舞台芸術や音楽が好きだったので、自分でやってみたら楽しいなと思いました。

一どのようなパフォーマンスをしているのですか?

公演は全部詩のタイトルに色の名前を付けて、色のイメージを詩で表すみたいなことやっていています。その中に色のイメージで一曲演奏したりしています。朗読だけじゃ疲れるかなって思って。

あと、手回しオルゴールの音を3つぐらい重ねるようなこともしました。衣装も内容に沿ったものにするなど、全体として詩の世界観を出したいと思っています。演劇と詩の朗読の間みたいなものを目指しています。

一主にどのような曲を使われるのですか?

クラシックが多いです。前の公演では、みはるがピアノ、私がヴァイオリンで一曲演奏しました。わりとヴァイオリンはいろんな音が出るので、弾いたり、キーンという音を鳴らしたり。ウィーンっていう音を出すこともできます。詩の中では演奏もありますが、どちらかというと効果音としても使用しています。

この間は、『ワルツのテンポで』という詩の途中で雰囲気が変わる場所があって、『弦楽セレナーデ』を弾きました。イメージにすごく合っていて、弾いている間に相方が朗読をして、合間にピタッと止めたりというように、雰囲気を作ります。

一お客様の反応はどうですか?

目を瞑って聴いてくださっている方を見つけると少し残念に思います。普通の朗読だとそういう風になると思いますが、私たちは、パフォーマンスを見てほしいので。まだまだ勉強中なので、プロの詩人の方に意見を頂いたり、アンケートを通してお客様にアドバイスを頂いたりもしています。

—ポエムフェスティバルでは大勢のお客様を前にして緊張しましたか？

ポエムフェスティバルは、自分で詩を書いている人が多く集まって交流するという感じでした。今年は谷川俊太郎さんの息子さんの俊作さんや、編集者の方も来ていました。わりとアットホームな感じだったのでちょっと緊張したけど、自信をもって臨むことができたかなと思います。

—製作期間はどれくらいですか？

結構長くて、お互いに詩を書いてメールで送り合ったりしています。あらかじめ順番などを考えて意見交換しながら、4か月ぐらいかけて原稿を作ります。演出のイメージなどは主に私が考えています。練習は10日間ぐらいですね。最初の公演は元々あった詩をピックアップして使ったのですが、今後はもうちょっと流れのあるものにしたいと思っています。

—紙面で読むのと、朗読する詩ではどんな違いを感じていますか？

紙面では、漢字かひらがなかによっても感じ方は人によって違うと思います。高さや、句読点、全体のバランスにもこだわりがあります。長さは短めのものが多くて、何回も目を通せるほうがいいかなと思って作っています。逆に朗読するものはある程度の長さが欲しいです。紙面だと難しい言葉でも、漢字で何となく意味がわかります。しかし、朗読はついていかなければならない為、わかりやすい言葉で作ることを心がけています。擬音もうまく

活用し、同じ「あ」でも1回目と2回目の読み方を変えるなどの工夫しています。

—衣装を着物にこだわっているのはなぜですか？

着物はもともとみはるの提案で、彼女は呉服屋の娘だということ。それと、彼女が中学生の頃に行っていた朗誦会で、着物を着て朗誦される方を見て、自分も着物でやりたいなって思っていたようです。私もフランス文学を勉強していて、フランスって古いものや個性を大事にする国なんです。流されやすい日本人というよりも、自分たちの古いものを大事にして誇りを持ちたいなと思っています。

—今後の活動や発表について目指しているものや目標などは？

「着物っていいな」とこれを始めてから思うようになりました。京都出身なので、京都発として東京にもっていったりして、京都っていう感じを出していきたいですね。

—今日はありがとうございました。



取材・編集：足立由佳(京都橘大学現代ビジネス学部2回生)
鈴木けい(京都女子大学発達教育学部1回生)

